

文化財IPMコーディネータ資格を取得して

新原茂春

1. はじめに

一昨年の12月に実施されました第1回「文化財IPMコーディネータ資格取得講習会と試験」を経て資格を取得させていただきましたので、今後のNPO法人としての活動の方向性を含めて報告させていただきます。

2. NPO法人の活動について

(1) 設立までの経緯

私たちのNPO法人は平成17年10月に開館した九州国立博物館の環境ボランティアを母体として設立しました。

博物館の開館前からカリキュラムに基づいてボランティアとしての一般知識や実習はもちろんのこと、環境ボランティアとしての専門的な研修(文化財IPMの基礎、考え方、実習など)を受講しながら九州国立博物館の開館を迎えました。

博物館開館後も各種研修を受けながら文化財IPMを実践していましたが、ボランティアの任期3年を終えても教わったIPMの知識と技能を活かして社会に貢献したいという思いから諸準備を経て平成19年にNPO法人を設立して福岡県の認証を受けました。

(2) NPO法人の活動

現在18名の会員数を擁していますが実働部隊は約7割程度です。その会員は殆どが現役を退いた会社員等で構成されていて、その業種は食品関連をはじめとして化学、住宅関連、保険、教職、公務員など種々のメンバーが集まった集団です。

活動の概要を以下に説明します。

・IPMメンテナンス

IPMの考え方に基づいたモニタリングと塵埃の除去、収集ダストの観察など実施。

実施箇所としては文化財周辺エリアとされる

箇所では博物館外周に近いエリアから並べると、トラックヤード、荷解き場、作業員控室、写場、学芸調査室、収蔵庫前室兼通路等となっています。



写真1 写場IPMメンテナンス

・インジケータ(トラップ)観察

館内に配置され回収された歩行性昆虫等を捕獲するトラップの観察とデータ入力など。

トラップを肉眼、ルーペ、実体顕微鏡などで観察し必要に応じて写真撮影を行い、データの入力とともに写真の整理などを行っています。



写真2 インジケータ観察

・ダスト観察調査

IPM メンテナンス時に回収したダストの他に、館内での異常発生時などに虫類の生息状況などを把握するためのダスト収集調査の企画、実行と収集したダストの観察とデータ整理を行っています。

・文化財 IPM の普及とその支援活動

文化財害虫セミナーの企画と開催、九州国立博物館などが実施するセミナーやシンポジウムなどを通じて文化財 IPM の普及を支援しています。

3. 今後の展開について

私達 NPO 法人が経験を積んできた IPM メンテナンスの実際やダスト観察調査、インジケータ観察などを中心として、IPM の導入などのお手伝いでコーディネータとしての役割を果たしてい

たいと考えているところです。

特にダスト観察調査については、「ダストには文化財環境の情報が凝縮されている」つまり宝物という観点からのサポートに重点を置きたい考えです。またそのためにもメンバーのスキルアップと関連資格の積極的取得にも重点を置きたいと考えています。

最後になりましたが今回の資格取得につきましては、九州国立博物館の環境ボランティア時代から文化財 IPM について暖かくそして時には厳しく指導していただきました本田光子特任研究員、また文化財害虫研究所の三浦理事長、その他多くの関係者の方々に深く感謝申し上げます。

(にいほら・しげはる

NPO 法人ミュージアム IPM サポートセンター)



写真3 ダスト観察



写真5 セミナー

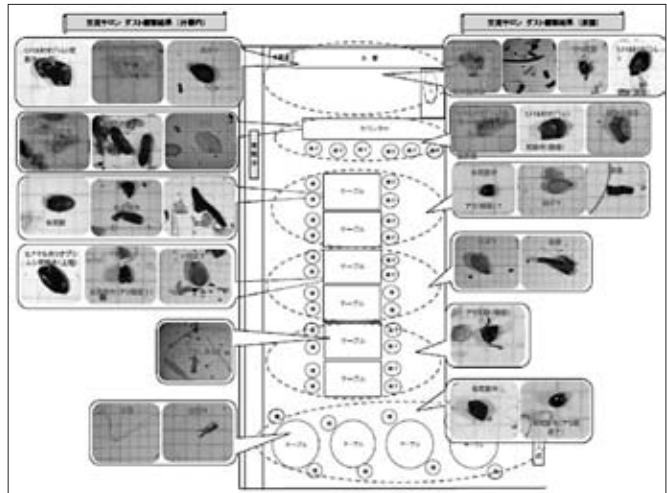


写真4 ダスト調査結果